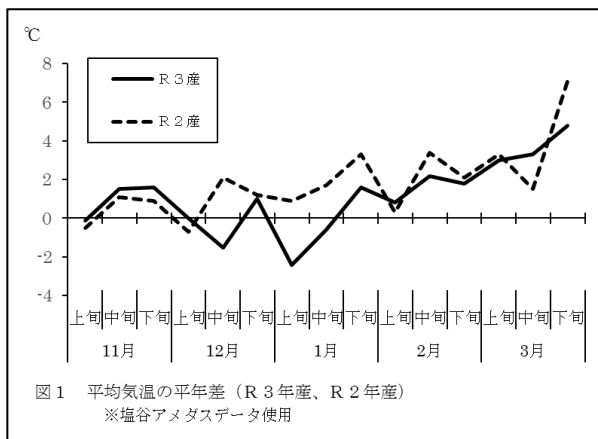


赤かび病の適期防除を行いましょう！

☞ 高温傾向で出穂期が平年より早まる可能性があるため、適期を逃さず防除しましょう。

1 生育状況

1 月下旬以降の平均気温は、平年より高く推移し(+1~4℃)(図1)、適期(11 月1日~15 日)に播種したほ場では平年より早く出穂期になると推測されます(表1)。



2 今後の管理

◇ 麦類は穂ばらみ期~出穂期前後の低温や高温で不稔が発生し、赤かび病にかかりやすくなります(表2)。

◇ 関東甲信地方1か月予報(令和3年4月1日気象庁発表)では、向こう1か月の気温は平年並~高い確率 90%、降水量は平年並~多い確率 70%となっています。このため、今後は高温・多雨による赤かび病の発生が懸念されます。

◇ 出穂期は平年より1~8日程度早まると予想されることから(表1)、適期を逃さず、必ず赤かび病の防除を行いましょう。

表1 塩谷地域の予想される出穂期と赤かび病防除適期(1回目)

	茎立期	出穂期 (予想)	赤かび病防除適期 (予想)	出穂期(参考)		
				平年	R2	R元
二条大麦(ニューサチ ホゴールデン)	3/9 頃	4/9~4/16	穂揃い期 7~10 日後 (4/19~4/29)	4/17	4/12	4/15
六条大麦(シュンライ)	3/24 頃	4/24~4/29	開花始め (4/19~4/28)	4/24	4/19	4/22
小麦(イワイノダイチ)	3/25 頃	4/17~4/20	開花始め (4/27~5/3)	5/1	4/27	4/30

表2 不稔を発生させる気象条件

- ① 出穂前8~10日頃の低温(-1.0~-1.5℃に3~4時間遭遇)
- ② 出穂期前後の降霜
- ③ 出穂期前後に25℃以上の高温に遭遇



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する